

## 最新の女性ファッション雑誌における日本語の特徴の量的分析

- 年代差に焦点をあてて -

谷口永里子 高橋真理子

京都大学大学院 人間・環境学研究科

{ taniguchi.eriko.58a, takahashi.mariko.76z }@st.kyoto-u.ac.jp

## 1. はじめに

現代日本語書き言葉の研究において、雑誌で用いられる日本語書き言葉についての研究は盛んに行われてきた。雑誌、特に女性ファッション雑誌は、想定される読者の年代が細分化しており、雑誌の中で使用される日本語にも読者層が反映されていると考えられる。雑誌の日本語の研究として、例えば山崎・小沼(2004)は、1994年出版の雑誌70種を対象とした語種構成の調査結果を報告し、国立国語研究所によって、より包括的な「現代雑誌200万字言語調査」(2006)が公開された。しかしこれらで使用されたデータは20年前のものであり、「現代日本語書き言葉コーパス(BCCWJ)」も2001年～2005年出版の雑誌を使用しており、10年以上前のデータである。言語は常に変化しているため、現在のファッション雑誌における日本語の分析には、最新のデータを用いる必要がある。

雑誌の日本語書き言葉の分析の着目点として、語種や字種がある。語種に関しては、山崎・小沼(2004)が、現代雑誌の分類と語種の関係を調査し、女性ファッション誌では、「和語・外来語の比率が他の雑誌の分類に比べて高く、漢語の比率が相対的に低い」(p. 672)と指摘している。勝田(2011)では、20代の女性向け雑誌の中で用いられた外来語を分析対象とし、略語や非基礎的外来語などに焦点を当てている。字種に関しては、柏野・中村(2013)はBCCWJを用いて、カタカナ表記語の各字種での表記率上位50位の語彙表を提示し、各字種のすみわけがあることを示唆している。また、テレビ番組のテロップを研究対象とした増地(2013)は、非標準的なカタカナ表記に着目し、「コンテキスト」や「表記主体の意識」が表記方法に作用していると指摘している。

これらの先行研究においては、特定の年代向けのファッション雑誌を分析したものはあるが(勝田2011)、対象読者層による日本語書き言葉での年代差については、あまり触れられていない。したがって本研究では、異なる年代の女性読者を対象とした最新の複数の雑誌を調査対象とし、年代別の日本語書き言葉の特徴について、量的分析を行うことを目的とした。

## 2. 調査対象と調査方法

調査対象とした女性ファッション雑誌と、それらが想定する読者の年代は以下の通りである:『nicola』(中学生)、『Seventeen』(高校生)、『non-no』(大学生・20代前半)、『MORE』(20～30代)、『Marisol』(30代後半から40代)、『éclat』(50代前後)<sup>1</sup>。分析には2016年1月号を用いた。この6誌のファッションとメイクに関するページ(広告や食品、旅に関するページは除外)から、最少フォントサイズの文字以外の全ての文字列を抽出し、テキストファイルを作成した。次に、「茶まめ<sup>2</sup>」を利用してそのテキストを短単位に分割し、品詞・語種情報を付与した。形態素解析器には「MeCab<sup>3</sup>」、解析用辞書には「UniDic」を使用した。分割単位は、国立国語研究所のBCCWJで使用されている短単位を援用した。そして必要に応じて修正を加えた上で、分かれ書きファイルを作成した。それに基づき、AtnConcのWord List機能を利用して各雑誌および全雑誌の語彙表を作成し、品詞・語種情報を併記した。

## 3. 結果と分析

収集したデータは6誌の比較分析を中心に、語数、字種、語種、品詞、非標準カタカナ表記、略語、造語の7点に着目し、主に量的分析を行った。統計分析にはSPSS Ver. 19を用いてカイ二乗検定を行い、多重比較となった場合はホルム補正を行った。

まず、6冊の雑誌全体をまとめた語彙表を作成したところ、延べ語数は76615語、異なり語数は9130語であった。表1に各雑誌の延べ語数と異なり語数をまとめた。延べ語数については、non-noとMarisolが最も多く、MORE、Seventeen、nicola、éclatと続いた。異なり語数についてはMarisol、MORE、non-noが有意差なく高頻度で、nicola、Seventeen、éclatの順となった。異なり語数に対する延べ語数の割合を計算してみると、non-noが最も高く(5.22)、

<sup>1</sup> nicola以外の5雑誌は集英社出版で統一した。nicolaは新潮社。

<sup>2</sup> <https://osdn.jp/projects/unidic/>

<sup>3</sup> <http://mecab.googlecode.com/svn/trunk/mecab/ddo/index.html>

nicola が最も低かった(3.64)。このことは中高生向け雑誌の語数が少なく、大学生以降に増加することを示唆している。また語数が少ない雑誌の方が、同じ言葉の繰り返し頻度は低いことがわかった。

表 1. 各雑誌の延べ語数と異なり語数

雑誌名	延べ	異なり	延べ/異なり
nicola	9853	2705	3.64
Seventeen	10779	2503	4.31
non-no	17073	3268	5.22
MORE	14440	3326	4.34
Marisol	16896	3401	4.97
éclat	7574	1982	3.82

すべての雑誌において、上位 10 位までの高頻度語は、多少の順位の違いはあったものの共通しており、付属語の「の、に、を、で、は、が、て、な、も、と」であった。自立語のみを抽出すると、各雑誌の上位 10 位までの高頻度語は表 2 のようになった。表 2 に 10 以上の語が掲載されている雑誌があるのは、同率語があったからである。表 2 に示されたように、「ニット」(ただし éclat では 31 位)や「大人」(Seventeen では 18 位)という各雑誌に共通の 1 月号のキーワードがある一方、それぞれの雑誌が異なるキーワード(例: nicola, Seventeen では「モテ」、non-no では「色」「スタイル」)を強調していることがわかった。

表 2. 各雑誌の上位 10 位までの高頻度自立語

nicola	コーデ、大人、冬、ニット、モテ、クリーム、セット、チーク、する、グレー、メイク
Seventeen	ニット、モテ、コレ、メイク、コーデ、色、感、アイテム、クリスマス、ワンピース
non-no	コーデ、色、ニット、コレ、冬、UP、感、柄、スタイル、大人
MORE	する、冬、コーデ、服、ニット、おしゃれ、コート、感、大人、スカート
Marisol	黒、感、する、色、おしゃれ、ニット、着、BEST、アイテム、一、大人
éclat	大人、アイテム、ある、感、美容、肌、コート、する、こと、素材

また、一般的な文章で用いられる句読点等の記号「、。！？“”」以外の記号「♡、☆、♪、◎、△、□」についてみると、全雑誌で最も出現頻度が高かったのは「♡」727回(12位)で、「♪」190回(33位)、「☆」66回(115位)と続く。この3つの記号の頻度と順位を雑誌ごとに見ると(表3)、Marisolとéclatではほとんど用いられていないことが分かる。

表 3. 記号頻度(順位)

	♡	♪	☆
nicola	198(5)	47(19)	39(25)
Seventeen	225(7)	39(28)	49(25)
non-no	205(11)	61(23)	16(56)
MORE	99(13)	43(28)	11(174)
Marisol	2	0	0
éclat	0	0	0

次に、各雑誌の字種分布について、延べ語数に基づいて分析を行った(図1)。nicolaを除く5誌においては、ひらがなが最も多く、次にカタカナ、漢字、アルファベットの順であった。nicolaにおいては、カタカナがひらがなより高頻度で出現した。雑誌間を比較すると、Marisolとéclatに使用された文字に漢字が占める割合が他の4冊よりも有意に高く、non-noとMOREに出現した漢字の割合がnicolaとSeventeenよりも有意に高く、対象年代による違いが明らかとなった。éclatとMarisolを比べると、ひらがなが占める割合にも有意差がないが、Marisolの方がアルファベットの割合が高く、éclatはカタカナの割合がMarisolより高かった。non-noとMOREの間では、non-noの方がカタカナの割合が高く、MOREの方がひらがなの割合が高かった。nicolaとSeventeenでも同様、2誌の間で対象年代の若い方のnicolaでカタカナの割合が高く、Seventeenでひらがなの割合が高かった。

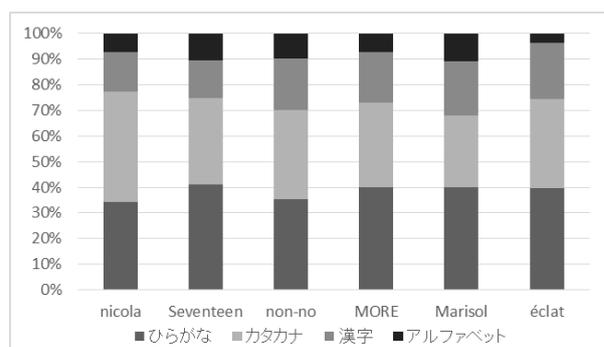


図 1. 各雑誌における字数分布

各雑誌における語種については、和語・漢語・外来語・固有名詞・外国語・混種語に分類を行い、延べ語数に基づく分布(図2)と異なり語数に基づく分布(図3)を示した。延べ語数を基準にデータを見ると、すべての雑誌で和語の割合が高く、次に外来語、漢語と続いたが、異なり語数を基準とすると、éclat、Marisol、non-noでは漢語の割合が外来語の割合より高く、MOREでも漢語の割合と外来語の割

合に有意な差はなかった。異なり語数を基準として雑誌間の比較を行ったところ、雑誌の対象年齢が上がるに従って、漢語の割合が上昇することがわかった。外来語の割合については、nicola における割合が高く、その他 5 誌の間には有意な差が見られなかった。和語の割合に関しては Seventeen における割合が有意に高く、その他の雑誌における割合には有意差がなかった。また、éclat における外国語の割合が他の雑誌に比べて有意に低かった。

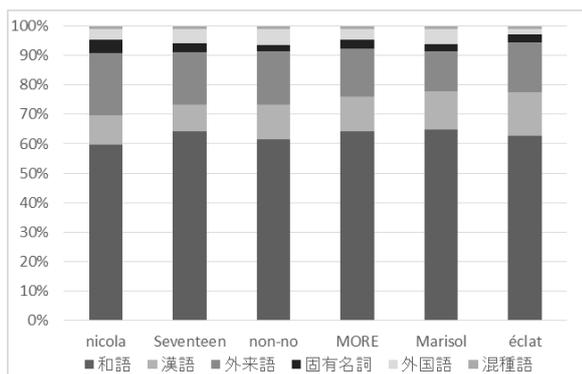


図 2. 延べ語数に基づく各雑誌の語種分布

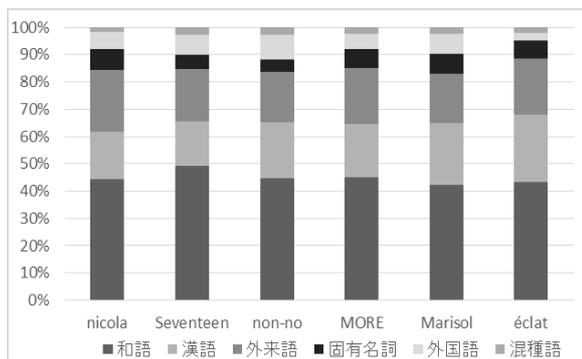


図 3. 異なり語数に基づく各雑誌の語種分布

また、異なり語数に基づいて品詞の分布を分析すると、6 誌すべてにおいて名詞が最も高頻度で、動詞、副詞、形容詞、形状詞の順となり、分布に大きな差は見られなかった（ただし Marisol のみ形容詞が副詞より高頻度であった）。Seventeen において、他誌に比べて副詞の割合がやや高いといった違いはあったものの、品詞データからは、雑誌で用いられる語彙の品詞自体にはあまり大きな差がない。各雑誌における日本語の違いには、その他の要因が関係していることが示唆された。

さらに、カタカナを含む語（以下「カタカナ語」と呼ぶ）に注目し、外来語とオノマトペ以外がカタカナで表記されている語、すなわち非標準カタカナ表記語の割合を分析した。表 4 は異なり語数に基づ

いている。非標準表記の割合には有意差が見られ ( $\chi^2=89.337$ ,  $df=5$ ,  $p=.00$ )、具体的には Seventeen、nicola、non-no の 3 誌における割合が、éclat、MORE、Marisol の 3 誌における割合より有意に高かった。このことは、学生を主な対象とする雑誌の方が非標準カタカナ表記を、より頻繁に行うことを示唆している。

表 4. 各雑誌のカタカナ語の標準・非標準表記分布

雑誌名	標準	非標準
nicola	755 (86.5%)	118 (13.5%)
Seventeen	584 (84.3%)	109 (15.7%)
non-no	730 (88.4%)	96 (11.6%)
MORE	405 (95.3%)	20 (4.7%)
Marisol	731 (93.7%)	49 (6.3%)
éclat	497 (96.5%)	18 (3.5%)

次に、略語の使用についてみる。勝田(2011)は 20 代を想定読者とする雑誌中に出現する略語について扱っているが、他の年代向け雑誌における略語の使用については明らかになっていない。本調査で収集した語彙の中で最も出現頻度が高かった略語「コーデ」と「ワンピ」、そしてその原型「コーディネート」と「ワンピース」の各誌における出現回数を表 5 に表わした。これを見ると éclat や Marisol での略語の使用度は、non-no、Seventeen、nicola に比べて低いことがわかる。その他の略語、ボヘ（ボヘミアン）・カーデ（カーディガン）・スカ（スカート）・テク（テクニック）・カジ（カジュアル）についても、コーデやワンピの場合と同様の傾向が見られた。

表 5. 略語とその原型

	コーディネート	コーデ	ワンピース	ワンピ
nicola	0	64	1	15
Seventeen	0	58	2	41
non-no	1	131	1	49
MORE	3	56	9	22
Marisol	12	25	10	7
éclat	6	2	19	1

さらに、noicola や Seventeen に現れた略語として、ヘビロテ（ヘビーローテーション）、イヤマフ（イヤーマフラー）、カモフラ（カモフラージュ）、クリパ（クリスマスパーティ）、読モ（読者モデル）、スクバ（スクールバック）、ヘアアレ（ヘアアレンジ）等があった。これらの略語は éclat、Marisol、MORE では出現頻度かなり低く、略語も原型も見られないものがあつた。

また、「やばぼよ」「キャワたん」「ゆるカワ」「ゆるずる」「ゆめかわ」「恋キュン」「もこかわ」「ちびぼこ」などが新造語として見られた。これらの新造語は、略語よりも原型を明確に特定しづらいものである。これらの新造語は、*éclat*、*Marisol*、*MORE* には見られず、若者向け雑誌にのみ用いられている。

略語・新造語の構造を見てみると、すべて 2~4 モーラ内に収まり、「2 モーラ+2 モーラ」(例：イヤ+マフ)あるいは「2 モーラ+1 モーラ」(例：クリ+パ)の構造を持つ。従来の短縮語の規則(窪菌 2002)に沿って、現在も略語や新造語が作られていることがわかる。

#### 4. 考察

最新の女性ファッション雑誌における日本語の量的分析を通して、読者の年代層による特徴が明らかになった。語数の調査結果から、中学生向けの *nicola*、高校生向けの *Seventeen*、大学生向けの *non-no* までは、対象読者の年代層が上がるにつれて、語数が増加していくことが明らかになった。しかし *non-no* 以降の雑誌では年齢層が上がっても語数は大きく増加しない。この結果は、学生を対象とするファッション雑誌の日本語に、読者層の使用語彙数の増加が反映されている可能性を示している。品詞の分布や高頻度の付属語は 6 誌で共通している一方、高頻度の自立語には各誌の特徴も現れていた。

また字種と読者の年代との関係について、漢字の使用頻度が最も高いのが 50 代、40 代を対象とする *éclat* と *Marisol* となり、使用頻度の最も低いのが中高生を读者とする *nicola* と *Seventeen* となった。ただし、他の字種(ひらがな、カタカナ、アルファベット)の使用には、読者の年代との間に直線的な関係が見られなかった。漢字の方がその他の字種に比べて字数が多く、大学以降も判読可能な漢字が増加するため、雑誌での漢字の使用頻度も増加する可能性が高い。したがって字数の多い漢字には読者の年齢との比例的な関連があるが、字数の少ないひらがなやカタカナなどでは読者の年代と使用率に同様の関係が見られないと考えられる。

またこれに関連する調査結果として、漢語の割合が挙げられるだろう。漢語の異なり語数は、読者の年代層が上昇に伴い増加している。年齢と共に漢語の語彙数が増え、雑誌の日本語にその傾向が表れているといえる。

非標準カタカナ語や略語、そして記号の出現頻

度からは、若い年代の女性に好まれる日本語の傾向が窺えた。*nicola*、*Seventeen*、*non-no* では、非標準カタカナ語・略語・記号のそれぞれの出現数が、他の 3 誌よりも多かった。これらの語は若年層に特徴的なものと指摘されてきたが、今回の分析結果で、より高い年齢層を対象とした雑誌では使用度が低く、年代差があることがより明確になった。

#### 5. まとめ

本研究によって、最新の女性ファッション雑誌において、想定される読者の年代が高いほど、漢字と漢語の出現頻度が高くなることが分かった。それに対して、若い年代では、非標準カタカナ語や略語、さらに♡や♪等の記号の出現数が高くなる。若い年代では、非標準的な日本語を用い、対象とする読者の年齢層が高くなるにつれ、より規範的な日本語を使用する傾向にあることが明らかになった。

今回は男性を対象読者とする雑誌の中で用いられる日本語との比較や、他の書き言葉コーパスとのデータ比較は扱わなかったため、残された課題として次稿に譲りたい。

#### 参考文献

- [1] 山崎誠、小沼悦. 現代雑誌における語種構成. 言語処理学会大会論文集, pp. 670-673, 2004.
- [2] 国立国語研究所. 現代雑誌 200 万字言語調査語彙表, 2006.
- [3] 勝田耕起. 20 代女性向けファッション雑誌における言語の特徴--外来語の場合. フェリス女学院大学文学部紀要 (46), pp. 21-31, 2011.
- [4] 柏野和佳子、中村壮範. 現代日本語書き言葉における非外来語のカタカナ表記事情. 第 4 回コーパス日本語学ワークショップ予稿集, pp. 285-290, 2013.
- [5] 増地ひとみ. テレビ番組の文字情報における文字種の選択 -番組のジャンルと語用論的要素に注目して-. 国文学研究, 176, pp. 82-67, 早稲田大学国文学会, 2013.
- [6] 窪菌晴夫. <もっと知りたい!日本語>新語はこうして作られる, 岩波書店, 2002.

#### 調査文献情報

- nicola*: 新潮社, 2015 年 12 月 1 日出版.  
*Seventeen*: 集英社, 2015 年 12 月 1 日出版.  
*non-no*: 集英社, 2015 年 11 月 20 日出版.  
*MORE*: 集英社, 2015 年 11 月 28 日出版.  
*Marisol*: 集英社, 2015 年 12 月 7 日出版.  
*éclat*: 集英社, 2015 年 12 月 1 日出版.